

ひごまると学ぼう! 熊本城

監物櫓



ひごまる

監物櫓ってどんな建物?

監物櫓は、熊本城の二の丸のうち、監物台樹木園の一番北にある櫓です。建てられた時期ははっきりしていませんが、下の石垣は1611~1624年ごろに作られました。江戸時代には、櫓が長岡図書という人の屋敷内にあったことから「長岡図書預御櫓」と呼ばれていましたが、ある時代に米田監物という人の屋敷と間違えられ、いつの間にか「監物櫓」という名前になったといわれています。



監物櫓

名前の由来に
ちょっとした秘密がある、
不思議な櫓なんだね!



監物櫓の基礎情報

構造	木造(一階建て)
建物の高さ	6.2m
全長	東西23.485m 南北5.975m
屋根	入母屋造/本瓦葺き
外壁	大壁漆喰塗り仕上げ、下見板張

修理の歴史

監物櫓は記録が残る明治から昭和の間で何度も修理されてきました。昭和の修理では、元禄3年(1690年)の年号がある瓦や、天保5年(1834年)の年号が記された柱、さらに安政7年(1860年)の棟札(建物をつくった人や年を書いた木の札)が見つかり、江戸時代にも修理が行われていたことがわかりました。



棟札(安政7年)

熊本地震のとき、どんな被害があったの？

平成28年熊本地震で、監物櫓は漆喰壁がこわれ、建物全体が北に傾きました。また、石垣にふくらみやズレが生じました。



地震後の監物櫓



崩れた築石



櫓東側の崩れた石垣

どうやって復旧したの？

まず、建物をすべて解体しました。その後、石垣の一部を解体して調査を行い、それが終わるとすぐに積みなおして、建物を元のように組み立てました。



石垣積みなおしのようす



積みなおしが終わった石垣



監物櫓を組み立てなおすようす



復旧後の監物櫓

監物櫓の木材や瓦は、修理前から使われていたものをできるだけ使いました。木材の傷んだ部分は切り取って新しく木をつぎ足したり、割れた瓦は同じ形のものを作りなおしたりしました。また、地震に強くなるように、目立たない壁をつけくわえて建物を補強する工事を行って復旧がおわりました。



補強のためにつけた壁（赤点線内）